

日本金銭機械株式会社

(証券コード:6418)

2020年3月期 通期決算説明資料

2020年5月

・2020年3月期 通期業績概要	.. 2~6
・セグメント別業績概要	.. 7~11
・新型コロナウイルス感染拡大による影響について	..12,13
・緊急収益改善策について	..14
・利益還元	..15
・参考資料	..16~30

2020年3月期 通期業績概要

ポイント

- ・3月5日発表の予想数値からは売上高、損益ともに上方での着地となったが、世界的な金融危機に見舞われた2010年3月期以来となる各段階損益での損失計上となる。

(単位:百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
26,109	△ 730	△ 861	△ 1,796

- ・期末の配当金については期初の予想どおり8円50銭とし、中間配当金と合わせて年間配当金を17円とする。

2020年3月期 通期業績のポイントをまとめております。

売上高は、前期比16.5%減、51億61百万円減収の261億9百万円、営業損益は3月5日発表の予想10億円の損失からは上方での着地となりましたが、27億4百万円減益の7億30百万円の損失となりました。

経常損益は外貨建資産に係る為替差損の計上等により、前期比31億27百万円減益の8億61百万円の損失、当期純損益は前期比30億85百万円減益の17億96百万円の損失計上となりました。

期末の配当金につきましては、期初の予想どおり1株当たり8円50銭とし、中間配当金と合わせて年間17円といたします。

2020年3月期 通期業績概要

	2019/3 実績	2020/3 実績	前期比		2020/3 3/5修正予想	3/5修正予想比	
			率	増減額		率	増減額
売上高	31,270	26,109	△16.5%	△5,161	25,900	+ 0.8%	+ 209
グローバルゲーミング	18,094	14,405	△20.4%	△3,688	14,150	+ 1.8%	+ 255
(内数)プリンター事業	(4,635)	(4,389)	(△ 5.3%)	(△246)	(4,200)	(+4.5%)	(+189)
海外コマース	3,371	2,624	△22.1%	△746	2,750	△ 4.6%	△126
(内数)プリンター事業	(47)	(21)	(△55.3%)	(△ 26)	(25)	(△16.0%)	(△ 4)
国内コマース	2,668	2,795	+ 4.8%	+127	2,800	△ 0.2%	△ 5
遊技場向機器	7,136	6,283	△12.0%	△852	6,200	+ 1.3%	+ 83
営業利益	6.3% 1,973	△2.8% △ 730	-	△9.1pt △2,704	△3.9% △1,000	-	+1.1pt + 270
経常利益	7.2% 2,265	△3.3% △ 861	-	△10.5pt △3,127	△4.4% △1,150	-	+1.1pt + 289
当期純利益	4.1% 1,288	△6.9% △1,796	-	△11.0pt △3,085	△8.3% △2,150	-	+1.4pt + 354
平均為替 レート	米ドル 110.37円	109.25円		△ 1.12円	109.25円		- 円
	ユーロ 130.05円	122.18円		△ 7.87円	122.20円		△ 0.02円

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6 4 1 8)

3

2020年3月期の業績について、説明いたします。

売上高は、「グローバルゲーミング」セグメントにおいて、ドイツでのゲーミング法改正による前期の需要の反動減の影響を大きく受け、大幅な減収となりました。

「海外コマース」セグメントでは、各地域における需要が軟調に推移し、「遊技場向機器」セグメントにおいても、遊技人口の減少や業界の規制強化の流れを受けて、パチンコホールの新規出店や店舗改装などの設備投資意欲が減退するなど、厳しい事業環境が続いたことにより、ともに前期比で、2桁の減収となりました。

2020年3月期 通期業績概要

	2019/3 実績	2020/3 実績	前期比 増減	2020/3 3/5修正予想	3/5修正予想比 増減
営業利益	6.3% 1,973	△2.8% △730	△9.1pt △2,704	△3.9% △1,000	+1.1pt +270
営業外損益	+291	△131	△422	△150	+19
(主な項目) 為替差損益	+184	△174	△358	△200	+26
経常利益	7.2% 2,265	△3.3% △861	△10.5pt △3,127	△4.4% △1,150	+1.1pt +289
特別損益	△345	△571	△225	△615	+44
(主な項目)					
訴訟損失	—	△99	△99	△70	△29
事業構造改善費用	—	△424	△424	△500	+76
・販売拠点・生産体制再構築		(内数) △289			
・特別退職金		△118			
・海外子会社資産の減損		△16			
減損損失	△366	—	+366	—	—
税引前利益	6.1% 1,919	△5.5% △1,433	△11.6pt △3,353	△6.8% △1,765	+1.3pt +332
(負担税率) 法人税等	32.8% 630	— 362	△268	— 385	△22
当期純利益	4.1% 1,288	△6.9% △1,796	△11.0pt △3,085	△8.3% △2,150	+1.4pt +354
決算期末日レート(米ドル)					
前期決算期末	106.31円	111.01円		111.01円	
	↓+4.70	↓△2.18		↓△3.01	
当決算期末	111.01円	108.83円		108.00円	

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

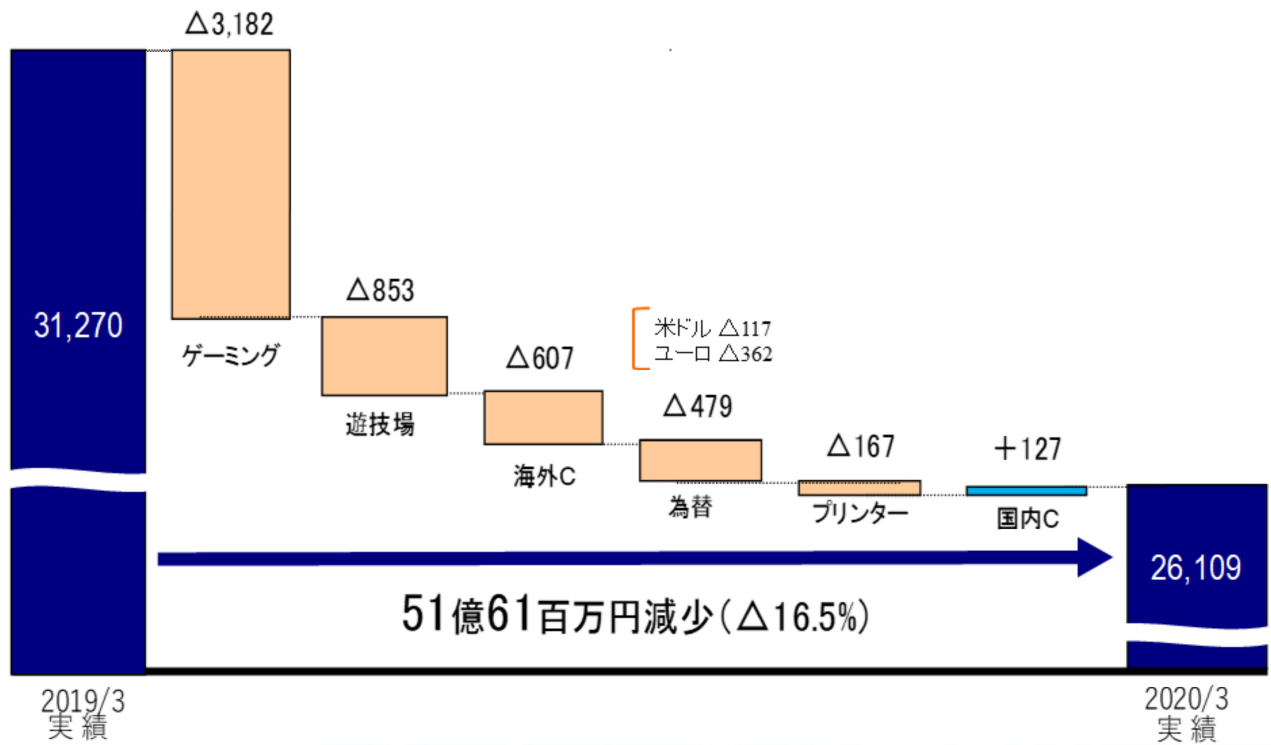
4

営業利益から純利益までの内容について、説明いたします。

減収要因に加えて、広告宣伝費、品質対策費用等の販管費が増加し、営業損失は7億30百万円となりました。

営業外損益で為替差損の計上もあり、経常損失が8億61百万円、さらに、特別損益で棚卸資産の評価損、国内外の販売・生産体制の再構築費用などの事業構造改善費用を計上したことなどにより、最終損益でも多額の損失計上となりました。

売上高増減要因（前期比）



2020年3月期 通期実績

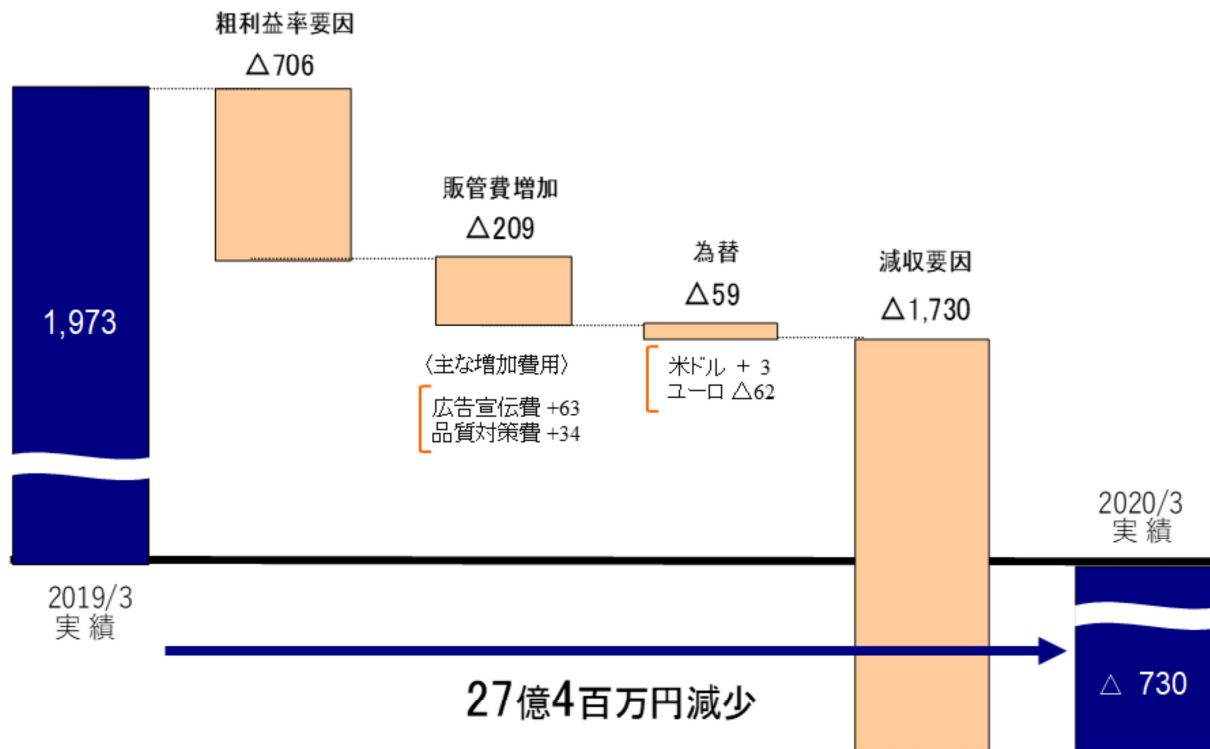
日本金銭機械(6418)

売上高の前期比での主な増減要因を示しております。

「国内コマーシャル」以外のセグメントでは前期比で減収となり、特に前期において好調に推移した「グローバルゲーミング」セグメントでの減収要因が大きく影響しております。

営業利益増減要因（前期比）

単位：百万円



2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

営業利益の前期比での主な増減要因を示しております。

価格競争による収益性の低下や販管費の増加といった要因もありますが、「グローバルゲーミング」セグメントを中心とした減収要因が営業損失の大きな要因となりました。

2020年3月期 セグメント別業績

		売上高			営業利益(率)		
		2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績
グローバル ゲーミング	外貨(千米ドル)	78,569	98,447	94,799	18.9%	21.9%	10.3%
	外貨(千ユーロ)	51,589	55,584	33,137			
	邦貨(百万円)	15,367	18,094	14,405	2,911	3,955	1,486
海外 コマーシャル	外貨(千米ドル)	13,894	11,098	9,275	16.5%	△6.8%	△33.4%
	外貨(千ユーロ)	17,611	16,502	13,186			
	邦貨(百万円)	3,797	3,371	2,624	626	△228	△877
国内 コマーシャル		2,664	2,668	2,795	10.6%	9.3%	16.2%
遊技場向機器		8,031	7,136	6,283	△6.1%	△3.2%	△2.4%
調整額		—	—	—	△1,958	△1,772	△1,643
連結		29,861	31,271	26,109	4.6%	6.3%	△2.8%
海外売上高	外貨(千米ドル)	92,463	108,508	103,002	(注) 表中の「調整額」は、各セグメントに配分していない全社費用です。		
	外貨(千ユーロ)	69,200	72,086	46,323			
	邦貨(百万円)	19,164	21,351	16,913			

「海外コマーシャル」は減収要因に加えて、新製品の開発投資費用の計上により、セグメント損益は多額の損失計上となる。
「遊技場向機器」は3期連続の部門赤字。

各セグメントの主な製品は、NO.27,28ご参照

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

7

セグメント別の業績を表示しております。

「国内コマーシャル」セグメントは堅調に推移しましたが、「グローバルゲーミング」セグメントでは減収要因に加えて、収益性の低下もあり、減益となりました。

「海外コマーシャル」セグメントでは減収要因に加えて、新製品の開発投資費用の計上により、多額の損失を計上することとなりました。

また、「遊技場向機器」セグメントは厳しい市場環境の影響もあり、3期連続で部門損失を計上することとなりました。

尚、セグメント別の概況については、次項以降で説明いたします。

区分		2017/3 実績	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	比較 増減	
						前期比	3.5業績修正比
北米・中南米	外貨(千米\$)	47,976	46,676	59,958	59,978	+ 20	+ 1,168
	邦貨(百万円)	5,250	5,230	6,617	6,552	△ 65	+127
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	9,176	5,210	4,822	4,805	△ 17	0
	邦貨(百万円)	1,004	583	532	525	△ 7	0
欧州・アフリカ・ 中近東	外貨(千€)	47,242	43,658	48,511	24,052	△24,459	△ 498
	邦貨(百万円)	5,696	5,555	6,308	2,939	△ 3,369	△ 61
プリンター	外貨(千米\$)	31,598	26,683	33,667	30,016	△3,651	+ 726
	外貨(千€)	7,834	7,931	7,073	9,085	+2,012	+ 905
	邦貨(百万円)	4,402	3,998	4,635	4,389	△ 246	+ 189
計	売上高(百万円)	16,353	15,367	18,094	14,405	△20.4% △3,688	+ 1.8% + 255
	営業利益(%)	18.1%	18.9%	21.9%	10.3%	△11.6pt	△ 0.3pt
平均為替レート	米ドル	109.43円	112.05円	110.37円	109.25円	△ 1.12円	- 円
	ユーロ	120.57円	127.24円	130.05円	122.18円	△ 7.87円	△ 0.02円

ドイツでのゲーミング法改正による前期の需要の反動減が、前期比で大幅な減収の要因

「グローバルゲーミング」について、説明いたします。

売上高は、プリンターが欧州地域における新規市場開拓により前期を上回ったものの、ドイツでのゲーミング法改正に伴う前期の特需の反動減が大幅な減収の要因となりました。

区分		2017/3 実績	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	比較 増減	
						前期比	3.5業績修正比
北米・中南米	外貨(千米\$)	9,504	8,338	7,559	6,347	△ 1,212	△ 473
	邦貨(百万円)	1,040	934	834	693	△ 141	△ 51
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	2,924	3,979	3,111	2,730	△ 381	△ 290
	邦貨(百万円)	320	445	343	298	△ 45	△ 32
欧州・アフリカ・ 中近東	外貨(千€)	15,368	17,611	16,502	13,186	△ 3,316	△ 314
	邦貨(百万円)	1,853	2,240	2,146	1,611	△ 535	△ 39
プリンター	外貨(千米\$)	2,302	1,577	428	198	△ 230	△ 32
	邦貨(百万円)	252	176	47	21	△ 25	△ 4
計	売上高(百万円)	3,466	3,797	3,371	2,624	△22.1% △ 746	△ 4.6% △ 126
	営業利益(%)	8.0%	16.5%	△6.8%	△33.4%	△26.6pt	△ 3.2pt
		276	626	△ 228	△ 877	△ 648	△ 47
平均為替レート	米ドル	109.43円	112.05円	110.37円	109.25円	△ 1.12円	- 円
	ユーロ	120.57円	127.24円	130.05円	122.18円	△ 7.87円	△ 0.02円

北米地域では、従来から取引のある金融向け需要がほぼ終了し、前期比で2桁の減収。
 アジア地域では、中国で鉄道向けに新製品が採用されたことにより増加したものの、金融、流通向けが振るわずに低調な推移にとどまる。
 欧州地域では、品質問題や景気低迷(ロシア)等の影響もあり、前期比で大幅な減収。
 収益面では、減収要因に加えて、将来の事業展開に向けて注力している新製品の開発投資費用の増加(前期比:約1億円増)もあり、営業損益で多額の損失計上となる。

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6 4 1 8)

9

「海外コマーシャル」について、説明いたします。

売上高は、中国の鉄道券売機向けに新製品の紙幣識別機ユニットの販売が増加しましたが、北米地域における金融向け需要の減少や欧州地域での主力製品が品質問題や経済情勢による需要低迷等により、2桁の減収となりました。

また、利益面につきましては、減収要因に加えて、新製品の開発投資費用が前期比で約1億円増加したこともあり、多額の損失計上となりました。

単位:百万円

	2017/3 実績	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	比較増減	
					前期比	3.5業績修正比
売上高	2,234	2,664	2,668	2,795	+4.8% +127	△0.2% △5
営業利益	7.5% 167	10.6% 280	9.3% 248	16.2% 453	+6.9pt +204	+1.9pt +53

省人化・省力化システムへの投資意欲が引き続き活発であり、ホテル自動精算機向けの需要が好調であったほか、公営競技場精算機向、バスの料金箱向需要も順調に推移しました。更に、改正健康増進法施行(本年4月1日)に対応した新製品(分煙ボックス)がガソリンスタンド系列店に採用されたこともあり、前期比で増収となりました。

分煙ボックス

- ・コンパクト設計のため、デッドスペースなどの狭い空間の有効活用に最適の喫煙専用室（1人用）
- ・大手ガソリンスタンド系列で採用され、約460台が設置される。



2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

10

「国内コマース」について、説明いたします。

当セグメントでは、省人化・省力化に向けたシステム導入が引き続き活発であり、また訪日外国人の増加や東京オリンピック・パラリンピックを見据えたホテルの建築ラッシュという追い風もあり、売上高はホテル自動精算機向、公営競技場精算機向、バスの料金箱向の需要が順調に推移しました。

また、4月1日から施行された改正健康増進法に対応した新製品(分煙ボックス)が大手ガソリンスタンド系列に採用されたこともあり、前期比で増収となりました。

単位:百万円

	2017/3 実績	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	比較増減	
					前期比	3.5業績修正比
遊技場	7,605	7,588	7,136	6,283		
アミューズメント	571	443	—	—	△12.0%	+1.3%
売上高	8,176	8,031	7,136	6,283	△ 852	+ 83
営業利益	※ (226) 4.1% 338	※ (81) △6.1% △ 489	△3.2% △ 228	△2.4% △ 149	+ 0.8pt + 79	+ 0.4pt + 21

※.2018年2月末で撤退したアミューズメント事業の営業利益を除いた進行年度との比較対象数値をカッコ内に示しております。

主な顧客先であるパチンコホールにおいては、先行き不透明な状況に加えて、規則改正等に対応した遊技機への入れ替えや受動喫煙防止対策の必要性などから周辺設備の買い控えが継続し、2桁の減収となる。
このような厳しい市場環境のなか、積極的な営業活動を行ってまいりましたが、市場規模縮小に伴う競合企業との競争激化の影響もあり、3期連続の部門損失の計上となりました。

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6 4 1 8)

11

「遊技場向機器」セグメントについて、説明いたします。

当セグメントの主な顧客先であるパチンコホールを取り巻く市場環境は、IR推進法に伴う「のめり込み防止対策」の検討や規則改正等に対応した遊技機への入れ替え、受動喫煙防止対策等、先行き不透明な状況から周辺設備の買い控えが継続しました。

このような市場環境の中、当社グループはシェアの維持・向上を図るため、旧機器のリプレースの推進など積極的な営業活動を行ってまいりましたが、店舗数の減少や市場規模縮小に伴う競合企業との競争激化の影響を受け、前期を下回る結果となりました。

また、減収要因に加えて、販売競争が激化したことから収益性も低下し、3期連続の損失計上となりました。

感染拡大防止への当社グループの取り組み・方針

- ・従業員及びその家族、そして取引先等を含めたステークホルダーの安全を最優先とする方針のもと、海外拠点、及び大阪・東京両本社においては、原則テレワーク（在宅勤務等）とし、やむを得ない場合はフレックスタイム制度による時差出勤等の対応を実施
- ・月次定例会議等の社内会議はオンラインにより実施
- ・従業員には、「感染しない・させない」責任ある行動を徹底

生産拠点の状況

- ・2月以降、操業を停止していた中国内生産が4月以降、操業を再開。
ただ、製品需要も大幅に落ち込んでいるため、営業活動への影響は軽微。
- ・進行中であった中国からフィリピンへの生産移管についてもストップを余儀なくされていたが、6月以降再開の見込みであり、2021年3月までに完了の予定。

新型コロナウイルス感染症による影響をまとめております。

最初に、この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様とご家族及び関係者の皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する当社グループの取り組みとしては、お客様、お取引先様をはじめ、地域社会の皆様、当社グループ及び当社グループ構内で働く従業員及びその家族など、国内外のすべてのステークホルダーの皆様の安全を最優先とする方針のもと、海外拠点及び大阪・東京両本社においては、原則テレワーク（在宅勤務等）とし、やむを得ず出勤せざるを得ない場合にはフレックスタイム制度による時差出勤等の対応を推進するとともに、月次定例会議等の社内会議はオンラインにより実施いたしました。

あわせて、社会的な要請に応えるべく従業員には、「感染しない・させない」責任ある行動を徹底いたしました。

続いて、事業活動への影響について、生産拠点の状況につきましては、2月以降操業を停止していた中国内での生産は操業を再開しており、現状はほぼ正常な状態に戻つつあります。

また、前期から進めておりますフィリピンへの生産拠点の移管につきましては、6月以降再開の見込みであり、2021年3月までの完了を予定しております。

業績への影響

新型コロナウイルス感染拡大により、世界全体がかつてないほどの厳しい状況にあるなかで、当社グループも海外のゲーミング事業、国内の遊技場向機器事業をはじめ、非常に大きな影響を受けております。

このように企業活動の停滞による影響や事業環境の変化に伴う設備投資への影響が不確定であるため、現時点において当社グループの事業活動への影響を合理的に算定することが困難であることから、2021年3月期の業績予想、ならびに配当につきましては「未定」といたします。

今後、開示が可能になった時点で速やかに公表いたします。

続いて、業績への影響については、新型コロナウイルス感染拡大により、世界全体がかつてないほどの厳しい状況にあるなかで、当社グループも海外のゲーミング事業、国内の遊技場向機器事業をはじめ、非常に大きな影響を受けております。

このように企業活動の停滞による影響や事業環境の変化に伴う設備投資への影響が不確定であるため、現時点において当社グループの事業活動への影響を合理的に算定することが困難であることから、2021年3月期の業績予想、ならびに配当につきましては「未定」とさせていただきます、今後、開示が可能になった時点で速やかに公表いたします。

引き続き、当社グループはサプライチェーンの混乱リスクを考慮した部材の確保に努めるとともに、顧客との情報交換を密に行い、需要動向を常にモニタリングし、市場の変化に速やかに対応してまいります。

《海外のゲーミング市場の動向》

- ・ラスベガス：3/18～閉鎖、カジノの再開は6月中旬以降の見込み
- ・マカオ：2/5～2週間の閉鎖後、再開されたが外国人の入境を禁止している為、低調。
2月度以降のマカオのカジノ売上高・対前年同月比増減率は以下のとおり。
2月度△87.8%、3月度△79.7%、4月度△96.8% 1～4月累計 △68.7%

《国内の遊技場市場の動向》

緊急事態宣言下の臨時休業による影響等で、ホールの設備投資意欲の低下が懸念される

以上のような事業環境の急変を受けて、相当程度の業績影響があるものと想定せざるを得ない状況にあると認識。このような危機的な状況を乗り切るべく、当社グループは一丸となって緊急的な収益改善策を聖域なく検討し、様々な対策に取り組んでまいります。

- 役員報酬の減額(2020年5月より実施)
- 事業運営体制のスリム化(管理コストの削減、人材の流動化等)

合わせて、下記の施策を実行するとともに、経営の方向性を明確にすべく、次期中期経営計画の策定も進めてまいります。

- 既存事業の深堀り
- 中長期トレンドを見据えた成長戦略の推進(新規事業の仕込み)
- 成長戦略に応じた事業ポートフォリオの整理

新型コロナウイルス感染症による事業環境の急変を受けて、この危機を乗り切るための取り組み、経営の方向性について説明いたします。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初堅調な推移を見込んでいた北米ゲーミング市場では全米のカジノホテルが一時的に全面閉鎖され、また、国内の遊技場市場においてもパチンコホールでの休業要請などにより、営業活動の自粛や一時的な活動停止をせざるを得ない状況となっております。

さらに、国内外のコマーシャル市場では通常の事業活動を継続している顧客が多く見られるものの、世界の経済全般が停滞傾向にあるとともに、顧客側のプロジェクトが延期になるケースも発生しつつあります。

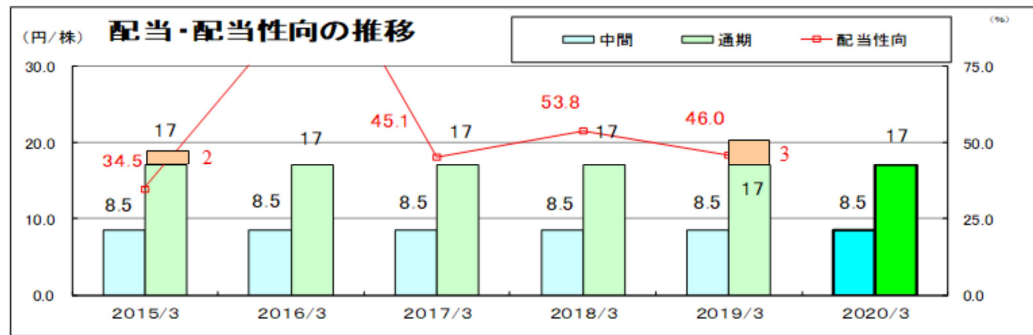
以上のような事業環境の急変を受けて、相当程度の業績影響があるものと想定せざるを得ない状況にあります。

このような危機的な状況を乗り切るべく、当社グループは一丸となって緊急的な収益改善策を聖域なく検討し、様々な対策に取り組んでまいります。

これらの取り組みを実行する一方で、今後の経営の方向性を明確にし、既存事業の深堀り、また中長期トレンドを見据えた成長戦略の推進、成長戦略に応じた事業ポートフォリオの整理を実行してまいります。

利益還元

2020年3月期については期初予想から変更せず、年間普通配当を17円とする



※2015/3には2円、2019/3には3円の記念配当を実施

1株当たり利益推移(円)	55.1	13.3	37.7	31.6	43.5	△60.6
配当性向推移(%)	34.5	128.1	45.1	53.8	46.0	—
純資産配当率(%)	1.7	1.8	1.6	1.5	1.8	1.6
配当総額(百万円)	512	458	456	503	592	504

《業績連動型株主還元を継続》

・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上を目指す

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

15

利益還元について、説明いたします。

当期については多額の損失計上となりましたが、5月12日発表のとおり、期末配当は期初の予定通り8円50銭とし、5月26日開催の取締役会にて決議予定であります。

尚、次年度の配当につきましては、新型コロナウイルス感染症による業績への影響を見極めることが困難なため、現時点では未定とさせていただきます。

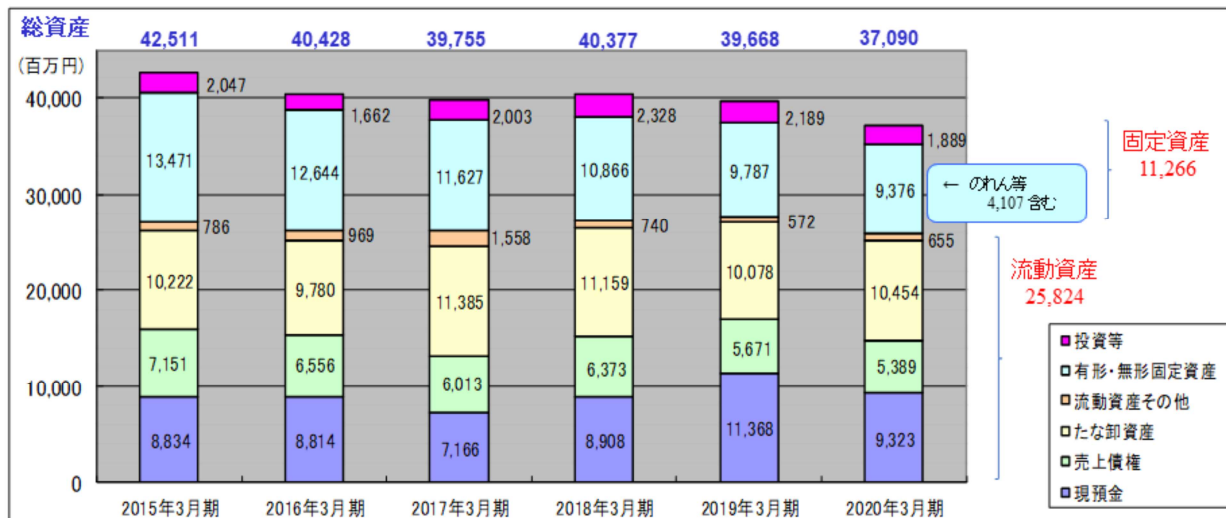
・貸借対照表	..17,18
・キャッシュ・フロー	..19
・設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移	..20
・為替影響	..21
・半期別業績推移(2018/3~2020/3月期)	..22
・半期別・セグメント別業績推移(2018/3~2020/3月期)	..23
・四半期別・セグメント別売上高推移(2018/3~2020/3月期)	..24
・業績推移と中期経営計画	..25
・遊技場市場関連情報	..26
・事業セグメントの概要	..27,28
・世界のゲーミング市場における高いブランド力	..29
・ESGへの取り組み	..30

資産 : △25億77百万円

(前期末比)

流動資産△ 18億67百万円 : 現預金 △2,044、売上債権△281、たな卸資産 +375

固定資産△ 7億10百万円 : 固定資産 △410、投資その他 △299



決算期末日レート	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
米ドル	120.28	112.69	112.18	106.31	111.01	108.83
ユーロ	130.38	127.68	119.81	130.81	124.66	119.55

2020年3月期 通期実績

バランスシートについて説明いたします。

2020年3月末の資産合計は、前期末と比較して、25億77百万円減少し、370億90百万円となりました。

増減の主な内容としては、流動資産では「たな卸資産」が3億75百万円増加した一方で、「現預金」が20億44百万円、「売上債権」が2億81百万円減少し、前期末比18億67百万円減少の258億24百万円となりました。

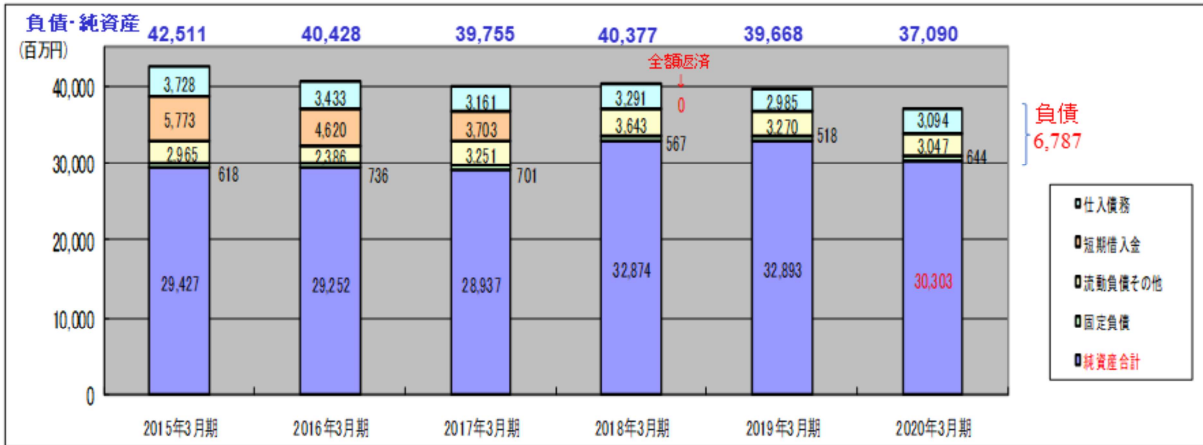
固定資産は、「のれん」等の償却が進んだことにより、無形固定資産で3億51百万円減少し、前期末比7億10百万円減少の112億66百万円となりました。

負債: + 12百万円 (前期末比)

流動負債△1億13百万円: 仕入債務 +109、賞与引当金△111、未払法人税等△66

固定負債 +1億25百万円: 会計方針の変更に伴い +174

純資産: △25億89百万円: 利益剰余金 △2,315、為替換算調整勘定 △166



自己資本比率(%) 69.2 72.3 72.7 81.4 82.9 81.7

1株当たり純資産(円) 1,090.80 1,084.29 1,080.96 1,108.57 1,109.70 1,021.68

負債は前期末と比較して12百万円増加して、67億87百万円となりました。

増減の主な内容としては、「仕入債務」が1億9百万円増加しましたが、「賞与引当金」が1億11百万円、「未払法人税等」が66百万円それぞれ減少したため、流動負債は1億13百万円減少いたしました。

固定負債は、海外関係会社についてIFRS「リース」を適用したことで1億74百万円増加したため、固定負債は1億25百万円の増加となりました。

純資産は、在外子会社の時価評価による「為替換算調整勘定」が1億66百万円、純損失計上と配当金支払いにより、「利益剰余金」が23億15百万円それぞれ減少したことで、25億89百万円減少の303億3百万円となりました。

尚、自己資本比率は81.7%と前期末と比べて、1.2ポイント減少しました。

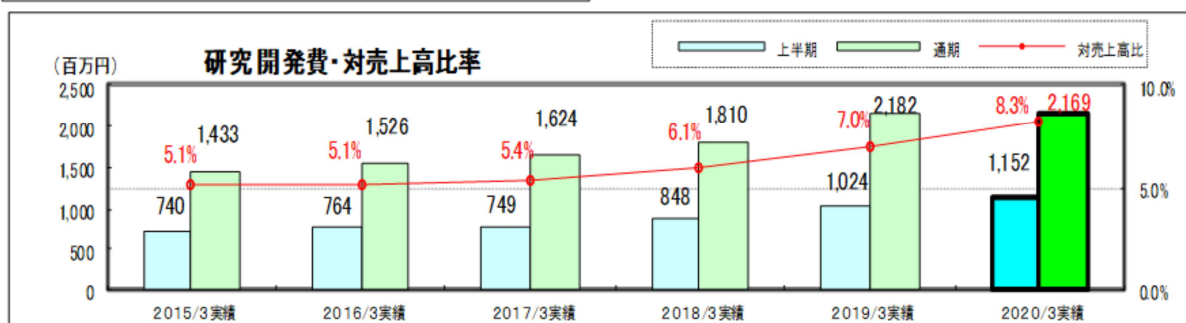
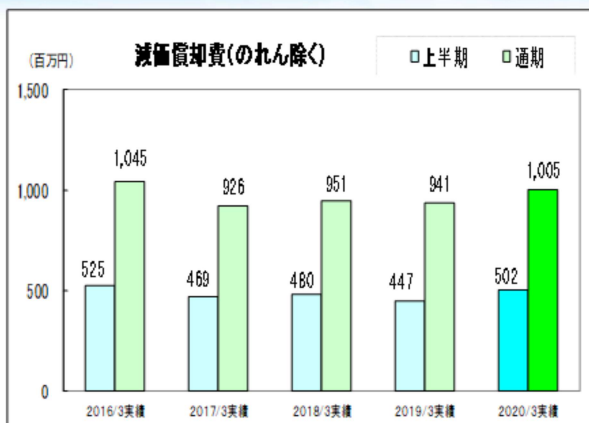
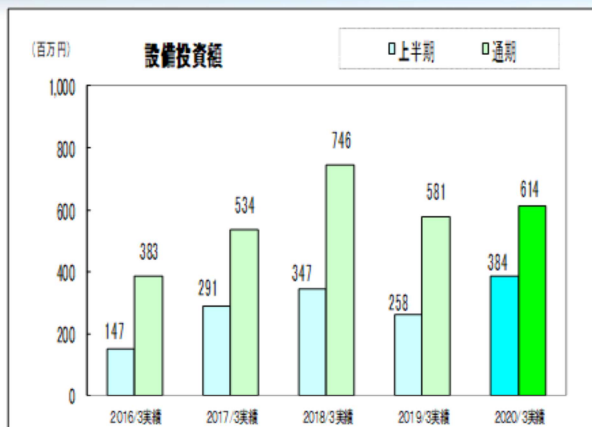
- ・営業CF: 純利益 $\Delta 1,433$ 、減価償却費 $+1,005$ 、運転資本(売上債権、棚卸資産、仕入債務)の増減 $\Delta 124$ 、法人税等の支払 $\Delta 184$
- ・投資CF: 有形固定資産取得 $\Delta 554$
- ・財務CF: 配当金支払 $\Delta 591$

	'15/3月期	'16/3月期	'17/3月期	'18/3月期	'19/3月期	'20/3月期
営業活動によるCF	1,801	1,758	611	3,461	3,601	$\Delta 658$
投資活動によるCF	$\Delta 6,991$	$\Delta 242$	$\Delta 293$	$\Delta 694$	$\Delta 556$	$\Delta 610$
財務活動によるCF	5,181	$\Delta 1,414$	$\Delta 1,688$	$\Delta 940$	$\Delta 535$	$\Delta 630$
現金及び同等物に係る換算差額	334	$\Delta 121$	$\Delta 278$	$\Delta 84$	$\Delta 50$	$\Delta 144$
現金及び同等物の増加額	325	$\Delta 19$	$\Delta 1,647$	1,741	2,459	$\Delta 2,044$
現金及び同等物 期末残高	8,814	8,794	7,146	8,888	11,348	9,303
フリー・キャッシュ・フロー	$\Delta 5,190$	1,516	318	2,766	3,045	$\Delta 1,268$

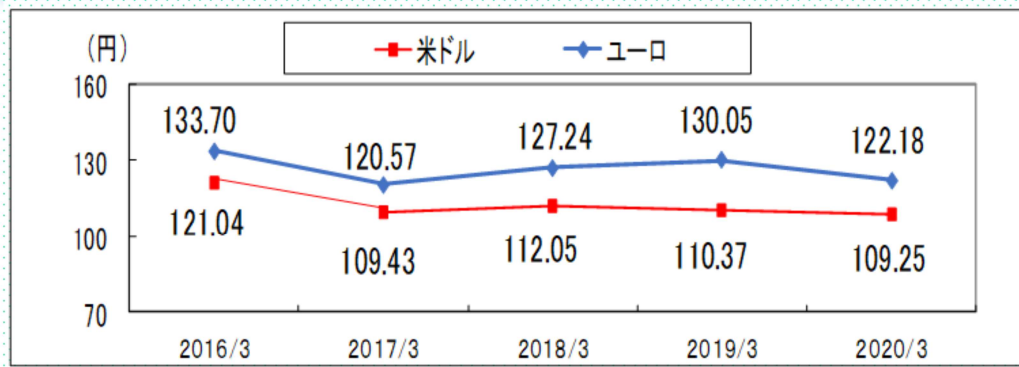
※フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの主な増減内容は、下記のとおりです。

- ◇営業活動CF $\Delta 6$ 億58百万円
 - 税金等調整前純損失 14億33百万円、
 - 減価償却費 10億5百万円、
 - 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減 $\Delta 1$ 億24百万円
 - 法人税の支払(Δ) 1億84百万円
- ◇投資活動CF $\Delta 6$ 億10百万円
 - 有形固定資産の取得 5億44百万円
- ◇財務活動CF $\Delta 6$ 億30百万円
 - 配当金支払 5億91百万円
- ◇現金同等物の換算差額 $\Delta 1$ 億44百万円



設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移を表示しております。



1円変動による営業利益への影響額 (通期: 百万円)

※円安が業績にプラスに



◇期中平均レート (円)

	2020/3実績	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	109.25	103
ユーロ	122.18	46

◇期末日レート (円)

	2020/3期末	為替感応度 ~営業外~(百万円)
米ドル	108.83	50
ユーロ	119.55	3

為替影響について説明いたします。

1円当たりの営業利益への年間での影響度合いとしては、米ドルで29百万円、ユーロは4百万円で、円安傾向が業績にプラスとなります。

また、営業外損益で計上される'外貨建資産・負債の評価換算'に関する1円あたりの感応度としては、米ドルで50百万円、ユーロは3百万円となります。

	2018/3 実績			2019/3 実績			2020/3実績		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	14,995	14,865	29,860	15,585	15,685	31,270	13,508	12,601	26,109
売上原価	9,090	9,294	18,384	9,696	9,318	19,014	8,219	8,273	16,492
売上総利益	39.4% 5,905	37.5% 5,571	38.4% 11,475	37.8% 5,889	40.6% 6,367	39.2% 12,255	39.2% 5,288	34.3% 4,328	36.8% 9,616
販管費	4,941	5,162	10,103	4,892	5,390	10,281	5,226	5,120	10,346
営業利益	6.4% 963	2.8% 409	4.6% 1,372	6.4% 996	6.2% 977	6.3% 1,973	0.5% 62	-6.3% △ 792	-2.8% △ 730
営業外損益	100	△ 321	△ 220	454	△ 162	291	△ 165	34	△ 131
経常利益	7.1% 1,064	0.6% 88	3.9% 1,152	9.3% 1,450	5.2% 815	7.2% 2,265	-0.8% △ 103	-6.0% △ 758	-3.3% △ 861
特別損益	△ 223	1,594	1,370	13	△ 360	△ 346	△ 29	△ 542	△ 571
税引前利益	840	1,682	2,522	1,464	455	1,919	△ 133	△ 1,300	△ 1,433
法人税等	386	1,211	1,597	417	214	630	157	206	362
純利益	3.0% 453	3.2% 471	3.1% 924	6.7% 1,047	1.5% 241	4.1% 1,288	-2.1% △ 290	-12.0% △ 1,506	-6.9% △ 1,796
平均為替レート									
米ドル	112.13円	111.97円	112.05円	108.52円	112.22円	110.37円	109.99円	108.51円	109.25円
ユーロ	122.25円	132.23円	127.24円	130.70円	129.40円	130.05円	124.11円	120.25円	122.18円

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

22

直近3年間の上半期、下半期の業績を表示しております。

	2018/3実績			2019/3実績			2020/3実績		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	14,995	14,865	29,860	15,585	15,685	31,270	13,508	12,601	26,109
グローバル ゲーミング	(千米ドル) 39,610	38,959	78,569	51,976	46,471	98,447	46,614	48,185	94,799
	(千円) 27,154	24,435	51,589	25,345	30,239	55,584	20,679	12,458	33,137
	7,760	7,607	15,367	8,953	9,141	18,094	7,694	6,711	14,405
海外 コマース	(千米ドル) 7,257	6,637	13,894	5,755	5,343	11,098	5,015	4,260	9,275
	(千円) 10,310	7,301	17,611	10,088	6,414	16,502	6,970	6,216	13,186
	2,074	1,723	3,797	1,943	1,428	3,371	1,417	1,207	2,624
国内コマース	1,129	1,535	2,664	1,341	1,327	2,668	1,373	1,422	2,795
遊技場向機器	4,031	4,000	8,031	3,348	3,788	7,136	3,021	3,262	6,283
営業利益	6.4% 963	2.8% 409	4.6% 1,372	6.4% 996	6.2% 977	6.3% 1,973	0.5% 62	-6.3% Δ 792	-2.8% Δ 730
グローバルゲーミング	19.0% 1,477	18.9% 1,434	18.9% 2,911	23.6% 2,114	20.1% 1,841	21.9% 3,955	14.8% 1,138	5.2% 348	10.3% 1,486
海外コマース	14.9% 310	18.3% 316	16.5% 626	3.3% 64	-20.4% Δ 292	-6.8% Δ 228	-28.6% Δ 405	-39.1% Δ 472	-33.4% Δ 877
国内コマース	10.1% 114	10.8% 166	10.5% 280	9.3% 124	9.3% 124	9.3% 248	18.2% 249	14.3% 204	16.2% 453
遊技場向機器	-0.5% Δ 19	-11.8% Δ 470	-6.1% Δ 489	-12.3% Δ 412	4.9% 184	-3.2% Δ 228	-1.9% Δ 56	-2.9% Δ 93	-2.4% Δ 149
調整額	Δ 918	Δ 1,038	Δ 1,956	Δ 895	Δ 878	Δ 1,773	Δ 863	Δ 780	Δ 1,643

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

23

直近3年間のセグメント別の業績を上半期と下半期に分けて、表示しております。

単位: 百万円

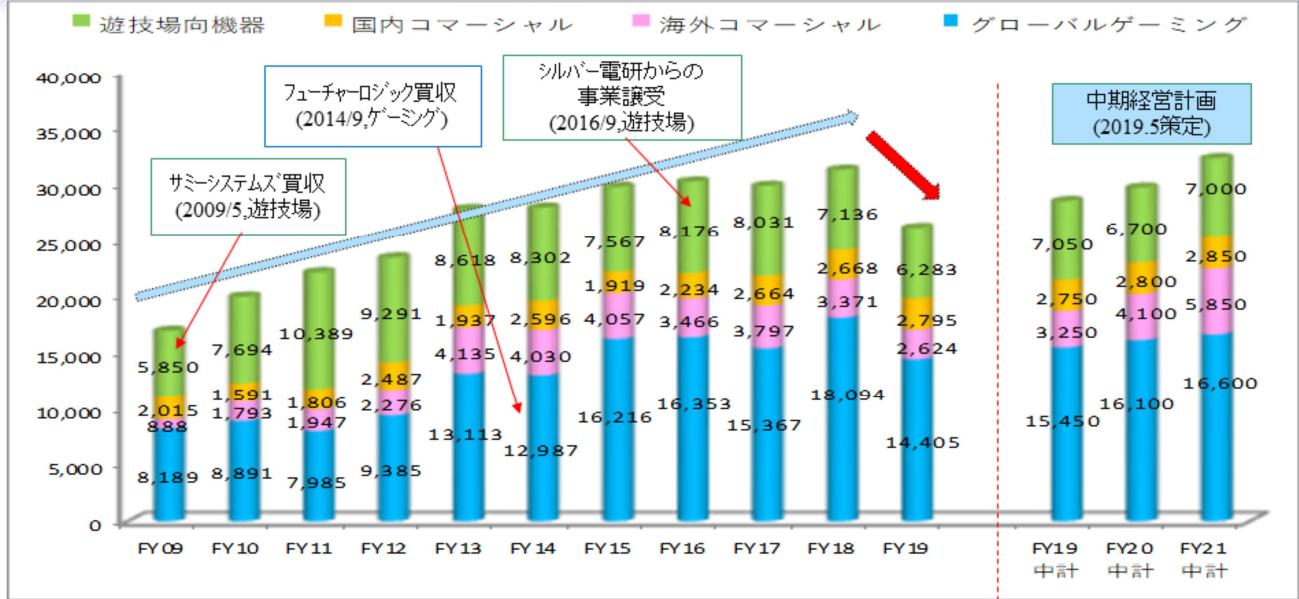
	2018/3実績					2019/3実績					2020/3実績				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	7,140	7,855	7,640	7,225	29,860	7,713	7,872	8,023	7,662	31,270	6,967	6,541	6,373	6,228	26,109
グローバルゲーミング	3,722	4,038	3,570	4,036	15,367	4,341	4,611	4,326	4,815	18,094	3,798	3,896	3,185	3,525	14,405
(内数)プリンター	(935)	(1,054)	(854)	(1,155)	(3,998)	(1,141)	(1,286)	(1,015)	(1,193)	(4,635)	(1,019)	(1,100)	(1,082)	(1,187)	(4,389)
海外 コマーシャル	928	1,146	846	876	3,797	884	1,058	736	692	3,371	756	661	606	600	2,624
(内数)プリンター	(15)	(86)	(51)	(24)	(176)	(11)	(15)	(15)	(6)	(47)	(6)	(7)	(4)	(4)	(21)
国内 コマーシャル	485	644	753	782	2,664	681	660	797	530	2,668	655	718	792	630	2,795
遊技場向機器	2,004	2,027	2,469	1,531	8,031	1,806	1,541	2,164	1,625	7,136	1,758	1,263	1,789	1,473	6,283

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

24

直近3年間のセグメント別売上高を四半期ごとに表示しております。



	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19	FY19 中計	FY20 中計	FY21 中計
売上高	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	27,917	29,761	30,230	29,860	31,270	26,109	28,500	29,700	32,300
営業利益	△ 363	539	1,052	1,330	1,761	1,285	1,497	1,752	1,372	1,973	△ 730	1,000	1,150	1,950
純利益	△ 940	666	778	1,432	1,418	1,486	357	1,012	924	1,288	△ 1,796	700	800	1,350

中期経営計画に関しては、実績が初年度より大きく乖離したことから見直しを進めておりましたが、新型コロナウイルスの影響や事業環境等を慎重に精査の上、策定が完了次第速やかに公表させていただきます。

2020年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

当社は2010年3月期の赤字決算以来、9期に渡り、業績の回復・拡大の途上にありましたが、2020年3月期は誠に遺憾ながら、厳しい業績となりました。

昨年5月に策定しました「新・中期経営計画」においても、進行年度と次年度については厳しい見方をしていましたが、想定していた以上に「グローバルゲーミング」、「遊技場向機器」セグメントで落ち込みが大きく、また「海外コマース」も販売を伸ばすことができず、計画と大きく乖離する結果となりました。

以上の状況を勘案し、中期経営計画の見直しについては既に着手しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響や当社グループの次年度以降の事業環境等を慎重に精査の上、完成次第、速やかに公表させていただきます。

① 周辺設備機器市場規模

周辺設備機器市場は2000年代には2,500億円ほどの市場規模があったが、直近では2年連続で1,000億円を割るレベルになっている。(億円)

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
1,622	1,743	1,751	1,534	1,484	1,192	982	935

(注)・矢野経済研究所『パチンコ産業白書』より

② パチンコホール売上高

2019年度は6月度迄は前年同月比で横ばいもしくはプラスで推移するも、7月度以降はマイナスに転じる。

	前年度比増減		前年同期間比増減	2020年度	
2016年度	△11.2%	1～3月累計	+2.9%	1～3月累計	
2017年度	△4.3%	4～6月累計	+2.0%	△9.9%	
2018年度	△2.8%	7～9月累計	△4.9%		
2019年度	△2.0%	10～12月累計	△7.8%		

(注)・『経済産業省 特定サービス産業動態統計調査』より

③ 遊技場関連統計

1995年以降減少傾向が続いていたが、2019年度末のホール数は1981年(9,807店)以来、38年ぶりの1万店割れ。

	市場規模 (億円)	参加人口 (万人)	ホール数		パチンコ設置台数		パチスロ設置台数		合計 (万台)	1店舗当たり平均 遊技設置台数 (台)
			増減率	(店)	(万台)	(万台)	(万台)			
2015年度	232,290	1,070	-2.7%	11,310	63.7%	291	38.3%	166	458	405.0
2016年度	204,180	940	-2.9%	10,986	62.6%	283	37.4%	169	452	411.9
2017年度	214,000	900	-6.3%	10,596	62.0%	274	38.0%	168	443	418.7
2018年度	207,000	950	-5.1%	10,060	61.3%	263	38.7%	166	430	427.7
2019年度	—	—	-4.2%	9,639	61.0%	255	39.0%	163	419	435.3

(注)・'市場規模'、'参加人口'は、「レジャー白書」より。2019年度については、7月上旬公表のため空欄。

・'ホール数'、'パチンコ'・'パチスロ設置台数等'は年末時点の数値。『警察庁保安課まとめ』より

遊技場向機器事業を取り巻く事業環境に関する項目を取り上げております。

警察庁の発表によると、2019年末のぱちんこ営業の営業所数は、前年比421店減の9,639店となった模様で、パチンコ店舗数が1万店を割り込むのは昭和56年(1981年)の9,807店以来、38年ぶりのことになる。

店舗数は平成7年(1995年)の1万8,244店を境に減少傾向が続いております。

遊技機の設置台数はパチンコ255万7,845台(前年比7万9,464台減)、パチスロ163万7,906台(同2万7,337台減)、合計で419万5,751台(同10万6,801台減)となりました。

また、1店舗あたりの設置台数は、前年より7.6台増えて435.3台となりました。

グローバルゲーミング

主な納入先：
スロットマシンメーカー、カジノホール

ゲーミング向
サーマルプリンター



紙幣識別機



キオスク/精算機

海外・国内コマmercial



駅



パーキング



ATM



バス

完成品メーカーへの
ユニットの販売



公営競技場



キオスク/精算機



納金機



セルフレジ



キオスク/精算機



納金機



セルフレジ



キオスク/精算機

遊技場向機器

主な納入先：
パチンコホール



メダル自動補給回収
システム

紙幣搬送器



玉・メダル貸機



据置景品払出機



景品管理POS



セグメント別での主な製品を記載しております。

グローバルゲーミング



国内コマース



遊技場向機器



各製品のシェアは、弊社推定値

日本金銭機械(6418)

主な製品と用途別のシェア(弊社推定)を記載しております。

JCMグループは、米州、欧州をはじめとした世界のゲーミング市場において、ゲーミング関連機器等の販売と各種サービスを提供しております。現在、北米で200を超えるゲーミングライセンスを取得しており、世界のゲーミング市場における実績とノウハウを保有する数少ない日本企業であると考えております。



世界最大規模のゲーミングショー
(Global Gaming Expo: 通称'G2E'), ラスベガス



欧州最大のゲーミングショー
(International Casino Exhibition: 通称'ICEショー'), ロンドン



アジア最大のゲーミングショー
(Global Gaming Expo ASIA: 通称'G2E ASIA'), マカオ

カジノマシンのメーカーをはじめ、周辺機器、設備、システムやサービスなど、幅広いジャンルの関連企業が集まるゲーミングショーへ毎年出展し、新製品や最新技術をお披露目しております。



国内外の関係者が一堂に会したジャパン・ゲーミング・コンGRESS (JGC)が昨年も5月16、17日に東京で開催されましたが、当社グループは、第1回から継続して、スポンサーとして協賛しております。左の写真は、当社米子子会社の責任者が登壇したセッションの様子です。

当社グループは、米州、欧州をはじめとした世界のゲーミング市場において、ゲーミング関連機器等の販売と各種サービスで長年にわたって実績を上げ、'JCM GLOBAL'は業界において、高いブランド力を持っているものと自負しております。

資料にありますように、世界の各地で開催されているカジノマシンのメーカーをはじめ、周辺機器、設備、システムやサービスなどの関連企業が集まるゲーミングショーへ毎年出展し、業界に向けて新製品や最新の技術を発信しております。

引き続き、グローバル市場において、これまでに培った米州、欧州市場でのゲーム機メーカー、顧客との関係強化、さらには新たなパートナーとの協力関係の構築を目指してまいります。

● 環境(Environment)

- ・ 国内 外環境法規制の順守
- ・ グリーン調達に対応した製品作りの実施



● 社会(Social)

■ 社会貢献

- ・ 米国子会社JACが冠スポンサーとなり、2019年で21回目となるゴルフ大会を開催。この大会で得られた収益金はゲーミング依存症等の調査機関へ全額寄付しておりますが、累計で2億円を超える金額となっております。

- ・ 大阪府内の障がい者就労施設の方々に対して、月に2度、大阪本社で昼食時にパン・ラスクの販売の機会を提供しております。



AGEM: Association of Gaming Equipment Manufacturers
AGA: American Gaming Association



● ガバナンス(Governance)

- ・ ゲーミングライセンスの継続維持に向けたグローバルガバナンスの強化



「ESG」の取り組みについて、説明いたします。

当社グループは関連法規制の順守に努めるとともに、資料に挙げておりますような「社会貢献」の取り組みを国内外で行っております。

「ガバナンス」については、3項目のなかでも特にグループを挙げて取り組んでおります。当社グループは、海外のゲーミング市場におけるさまざまな状況においても販売を可能とするために、非常に厳格な審査を必要とする「ゲーミングライセンス」の取得に注力するとともに、ライセンスをはく奪されることのないように、全社員がガバナンスの順守を意識しております。

当社グループは引き続き、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、重要課題の取り組みを推進することで持続可能な社会の実現、すなわちSDGsの達成に貢献してまいります。